

“廃材”を“便利”に変える社内 DIY 役立つ製品を自ら製作する「社内大工プロジェクト」 職場改善と環境配慮を両立

防熱扉の設計・製造・販売・施工を手掛ける岸産業株式会社（本社：大阪府堺市、代表取締役：岸 晃広）は製造工程で発生する端材を活用し、社内で役立つ製品を自ら製作する「社内大工プロジェクト」を昨年7月に開始しました。この取り組みでは、社員からの「あったら便利なもの」に関するアンケートをもとに、スリッパラックやトイレ用の物置棚などの製品を制作しています。また、約1年間継続する中で、廃材の削減や社内の整理整頓意識の向上といった変化も現れています。



■「社内大工プロジェクト」を開始した背景とプロジェクトについて

弊社は年間で約1000枚の防熱扉を製造しており、その作業工程で発生する端材は、月に数回、産廃業者にコストをかけて引き取ってもらっていました。近年、防熱扉の需要増加に伴い端材の量も増え、1カ月間で4トントラックのコンテナが満杯になることも珍しくなく、産廃業者の回収頻度も年々増加していました。

このような状況を受け、端材を有効活用し、社員が必要とする物や便利な物を製作することで、社内5S活動の維持、働きやすい環境づくり、そして社会への貢献を実現できるのではないかと考え、昨年7月に「社内大工プロジェクト」を開始しました。

プロジェクトの立ち上げに際して、社員全員に「あったら便利になるもの・作ってほしいもの」をテーマにアンケートを実施しました。その結果、オフィス内の整理整頓や作業効率の向上に寄与する製品が求められていることが分かりました。



現在、製造部門の社員複数名が「社内大工」として活動し、主に端材を活用して計6種類の製品を完成させています。（一部、端材のみでは製作が難しい場合には、他の材料も補完的に使用しています。）

■今までの製作物(一例)

小物置き用の棚



トイレの物置棚



資料置き場



物が散乱し、どこに保管したかわからず探す必要があったことが一目でわかるように

モノの定位置が決まっておらず、掃除当番制で人によって置き場所がバラバラだったのが「どこに何があるか」がわかりやすくなった

以前は資料の場所が整理されていなかったが、専用の棚を設けたことで、必要書類の所在が明確になった

■社内からの反応

実際に完成品を利用している社員からは、日々の業務の中でその効果を実感する声が多く寄せられています。

「玄関が広くなくて快適になりました」

「お客様が複数来社されたときも、スムーズに靴を履き替えられるようになって助かっています」

「“あったらいいな”と思っていたことが実際に形になるのは、とても嬉しいです」

このように、社員一人ひとりの働きやすさにつながるだけでなく、来客対応のスムーズさといった対外的な印象の向上にもつながっています。



■社内大工で取り組んだ方の声

実際に「社内大工」として製作を担っている社員からは、

「この作業を通じて、みんなが快適に過ごせるようになるのが嬉しい」

「実際の困りごとを改善できるので、やりがいがあります」などの声があがっています。

業務の合間を縫って取り組む中でも、誰かの役に立っているという実感がモチベーションとなり、改善によって生まれる「ありがとう」が、現場全体に良い循環をもたらしています。



■今後の計画・展望

現在も社内から「〇〇が不便だから、こんな物を作ってほしい」といった具体的な要望が寄せられており、「社内大工プロジェクト」は今後も継続して取り組んでいきます。

廃材を活用し、社員の声に耳を傾けながら職場をより良くしていくことで、持続可能なものづくりと働きやすい環境づくりの両立を目指します。

■会社概要

本社 : 大阪府堺市堺区北波止町 42 番 22

代表者 : 代表取締役 岸 晃広

設立 : 昭和 33 年 10 月

従業員数 : 34 名

URL : <https://www.kishisangyo.com>

<報道関係者 お問い合わせ先>

株式会社岸産業株式会社

担当 : 若林

TEL : 072-233-0102 メールアドレス : kishisangyo0002@icloud.com